

天津祝詞(禊祓詞)全文

高天原に(たかまのはらに) 神留まり坐す(かむづまります) 神魯岐(かむろぎ) 神魯美の(かむろみの) 命以ちて(みこもちて) 皇御祖神(すめみおやかむ) 伊邪那岐之(いざなぎの) 大神/伊弉諾尊(おおかみ/みこと)

筑紫の(つくしの) 日向の(ひむかの) 橘の(たちばなの) 小戸の(をどの) 阿波岐原に(あはぎはらに) 身禊祓い給ひし時に(みそぎはらいたまひしときに) 生坐る(あれませる) 祓戸の(はらえどの) 大神等(おおかみたち)

諸々の(もろもろの) 枉事罪穢を(まがごとつみけがれを) 祓へ給へ清め給へと(はらへたまへきよめたまへと) 申す事の由を(まをすことのよしを)

天津神(あまつかみ) 國津神(くにつかみ) 八百万の神等共に(やおよろずのかみたちともに) 天の(あまの) 斑駒の(ふちこまの) 耳振り立てて(みみふりたてて) 聞食せと(きこしめせと)

恐み恐みも申す/白す(かしこみかしこみもまおす/まをす)

補足情報

1. 名称と読み方

◦この祝詞は「天津祝詞(あまつのりと)」または「禊祓詞(みそぎはらえのことば)」と呼ばれます。

2. 伊邪那岐命:

◦「皇御祖神」は天皇陛下の先祖神である伊弉諾尊(いざなぎのみこと/おおかみ)を指します。

3. 場所の真意:

◦「筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原」は、『古事記』による禊祓いが行われた場所とされていますが、大本などでは、地名ではなく、一言ひとことが言霊の力を持つ(例:「つくし」は究極、「あはきはら」は全大宇宙間)と解釈されています。

4. 斑駒(ふちこま)の句:

◦「天の斑駒の耳振り立てて聞食せと」の句は、**「宇宙全体の隅ずみまで」(天の斑駒)、「活動を開始してください」(耳振り立てて)**という意味合いを持つとされます。この句は平田篤胤の底本にも含まれています。

5. 内容:

◦この祝詞は、**高天原の親神から生まれた伊邪那岐命が禊をした時に現れた祓いの神々(祓戸の大神等)**^{**}に対し、数々の災いや罪穢を祓い清めるようお願いし、天上の神、地上の神、八百万の神々にもこの願いを聞き届けてほしいと謹んで申し上げるものです。

6. 利用と効果:

◦声に出して読むことで言霊となり、神々が力を貸してくださり、穢れや罪を祓い清める効果があると信じられています。